



刺しゅう作家

横山 幸希 さん



「加賀繡」^{ぬい}を伝承、装飾品に

金銀の絹糸を織り交ぜて花鳥風月の模様をつくる国指定伝統的工芸品「加賀繡」。刺しゅう作家、横山幸希さん（25）は、加賀繡の伝統工芸士である母・佐知子さん（56）が営む「加賀繡 I M A I」（金沢市三口新町）で、100年続く加賀繡の伝統的技術を継承するとともに「身近なジュエリー（装飾品）」としてもっと美術的価値を高めていきたい」と刺しゅう作家活動に意欲を燃やす。

「小さい頃から曾祖母（今井福枝）や母親と一緒に加賀繡に親しんできましたが、作家になるとは思ってなく、大学進学の前は経営面から加賀繡を支えたい」と考え、中央大商学部へ。就職先を探す時期になって「やっぱり自分で作りたい」と心境

が変化し、東京の杉野服飾大学院に進み、ジュエリーを学んだ。今年4月まで東京の繊維商社に勤めていたが、本格的に作家活動に入るため金沢に帰り、加賀繡を制作。2024年4月、東京都美術館で開かれた第62回日本現代工芸美術展・一般の部に初出品、現代工芸賞を受賞した。

受賞作「五候」は、日本の72ある日本の季節感5つを表現、四角や三角の立体の中に加賀繡の技法を用いて濃淡の異なる赤色で抽象的な模様を描いた。「具象的な模様でなくても加賀繡が美しくみせられる」ことが自信になったよう。

父親はスポーツ好きの整形外科医。幸希さんは中学生から陸上競技を始め、金沢高時代に円盤投げで国体出場経験を持つ異色のアーティスト。自らの名を付けたアクセサリブランド「YOYUKI」も展開しており、伝統工芸の世界に新風を吹き込む格好だ。

（お）

加能人 目次 5月号

題字・金田 心象
表紙作品 荒木 祐一

フोट	大阪・関西万博で石川発信……2
話題の人	刺しゅう作家 横山幸希さん……3
老舗の心	カジグルーブ……4
活躍する県人	現代の名工中村さん水琴窟を復活……7
スポーツ	大の里綱取りに挑む……8
人事・選挙	県議補選・自民県連新体制……9
石川県出身者の動き	……9
石川の動き	国道249号大川浜・一般車も通行……10
北陸経済	金沢片町「ブレイゴ」閉鎖へ……12
今さら聞けない	ITいろは講座……13
ふるさとウオッチ	ポケモン列車に記念乗車証……14
事事件簿	……15
広報ネットワーク	……15
美術情報	芸術院賞に武腰一憲氏……16
金沢百万石まつり特集	……17
春の叙勲・褒章・危険業務叙勲	……18
県人会・同窓会・つどい	……20
TOKYO金澤CLUB	東京穴水会 金沢龍馬会
南大阪県人会	東京珠洲会 関西珠洲会
われら同期の桜	小松高校第52回生……21
母校だより	向陽高に特別支援学校……22
加能随想	……23
表久雄	加葉田和夫 窪田治男
桜鱗のされど雑草	……25
加能俳壇・二水関西の川柳	……26
おくやみ	……29
のともん便り・食酒アラカルト	……30
出版情報	……32
ミュージアムガイド	……33
加能ガイド	……34

話題の



『このミステリーがすごい!』大賞受賞作家
城山 真一 氏

デビュー5周年で連続2作

七尾市出身、金沢市在住の小説家
城山真一氏(47)はデビュー5周年

を迎え、昨年12月9日、刑務所を舞台にした『看守の流儀』(宝島社)を刊行したのに続き、今年1月23日、『相続レストラン』(角川文庫)を発売した。両作とも石川を舞台にストーリーが展開しており、『看守の流儀』が県内主要書店で発売から4週連続1位となり、地方発の本格的な社会派ミステリー作家として注目されている。

2015年、『国選ペテン師 千住庸介』(泰文堂)で作家デビュー、

翌16年発売の『ブラック・ヴィーナス 投資の女神』(宝島社)で第14回『このミステリー

がすごい!』大賞を受賞、17年には『二礼茜の特命 仕掛ける』(同)でも株取引の天才女性を主人公にしたエンターテインメン

ト小説を著し、文壇に評価されファンをつかむ。

七尾高2年の時、高校生向けの小説コンクールに応募、作家赤川次郎氏の審査で受賞し、「当時はまだ強い思いは抱いてなかった」というが、小説家が視野に入る。30代で内灘町の生涯学習・文芸スクールに通い、講師の一人、月刊「おあしす」の創刊者で五木寛之氏と親交のある金子建樹氏からプロになることを勧められ、本格的に作家を目指す。

「ミステリー作家を目指したわけではなく、読者の興味をひくストーリーテラー(語り部)になりたい。事件だけでなく人を如何に書くか、市井の人たちの悩みや苦しみを物語に映し込んでいくことを心がけている」と基本姿勢を語る。

ちなみに『相続レストラン』は、金沢の東山を舞台に元税理士のウェイターが、近年関心が高い相続トラブルを華麗に解決していく筋立て。新幹線効果により、金沢が「全国区」になり、地方在住のハンディーがなくなってきたのも追い風だ。(お)

